

平成21年度学校体制

今年度の学校体制をお知らせします。

担当・職名	氏名	住まい	備考
校長	相川 芳廣	甲斐市(敷島)	
教頭	古屋 宗久	山梨市	
教務主任	小川 啓介	甲斐市(竜王)	
1年担任	田村 令子	甲斐市(敷島)	
1年所属	石井 光子	甲斐市(竜王)	
2年1組担任	平賀 三代子	甲斐市(双葉)	
2年2組担任	山田 仁美	甲斐市(敷島)	
3年1組担任	石原 祐子	甲府市	
3年2組担任	名取 和騎	韮崎市	
4年1組担任	高橋 秀美	北杜市	
4年2組担任	松橋 勝	甲斐市(竜王)	
5年担任	志村 征俊	甲府市	
どんぐり学級担任	古屋 孝子	甲斐市(双葉)	
6年1組担任	廣瀬 昇	甲斐市(竜王)	
6年2組担任	猪股 美佐子	甲斐市(双葉)	
養護教諭	青木 美和子	甲斐市(敷島)	
事務主任	小澤 奈美	中央市	
図書館司書	斉藤 康恵	甲斐市(敷島)	
A L T	ペイム・ロバート	甲府市	毎週金曜日
庁務員	保坂 洸	甲斐市(敷島)	隔週で勤務
庁務員	内藤 五郎	甲斐市(敷島)	隔週で勤務

補足説明

今年度本校は、1年生と5年生が人数の関係から1クラスになってしまいました。(平成20年度に比べて1クラス減)そこで、1年生は県の「はぐくみプラン」と甲斐市教育委員会の配慮による「支援員」により1名の教員(石井教諭)を配置することで、2名(田村教諭と石井教諭)が協力して1年生の指導をしていく体制をつくりました。

5年生(児童数38名)も1クラスですが、どんぐり学級の所属児童(3名)に5年生児童が2名いることから、どんぐり学級担任の古屋教諭を5年生所属としました。そこで担任の志村教諭と古屋教諭が力を合わせ5年生の指導をすすめていきます。

本校に赴任するまでは、敷島北小の児童数がこれほど減少しているとは思っていませんでした。正直な話、驚くとともに危機感を持っています。少人数でもよいのですが、学校の活力、という点から見ると、どの学年も2学級は欲しいな、と思います。北小も最盛期には3学級の学年が2学年あり、全校で14学級という時代もありました。(当時は1学年の児童数が90名を越える学年もありました。)

児童数減少の中ですが、5年生には4月初めに2名の転入生があり38名になりました。あと3名の転入生があれば41名になり2クラスになります。「6年生になるまでに2クラスに」そんな願いを持っています。最高学年が2クラスになれば、当然職員数も増え、縦割り活動などの児童会活動も大変円滑に進めることが出来るようになります。もし、知り合いに「北小区に住みたい」という5年生のお子さんをお持ちの方がおいでになりましたら、是非、声をかけてください。転入生大歓迎です。勿論、児童数が増えるので5年生以外の転入生も大歓迎です。

牧野富太郎のこと

牧野富太郎(1862～1957)という名前を聞いたことがありますか。わが国が世界に誇る植物学者で、日本各地の植物を採集観察して多くの新種を発見しました。「日本植物図鑑」などの著があります。これから紹介する話は、この著名な植物学者である牧野富太郎(まきのとみたろう)の逸話です。

当時、富太郎の高名は日本中に鳴り響き、その名前を知らない人はいないほどでした。富太郎には孫がいました。この孫は賢い子でしたが、自分の祖父が有名な学者ということのを鼻にかけ、学校では真面目に学習に取り組む気持ちが乏しかったようです。特に理科の植物の学習などでは学校の勉強に見向きもしないばかりか、先生のことを馬鹿にし授業態度も良くなかったようです。母親からこのような話を聞き、富太郎は孫のことを大変心配していました。

あるとき、この孫を含めた子ども仲間が野山で見慣れない野草を見つけました。図鑑で調べましたが分かりません。富太郎の孫は得意げに、

「うちのおじいちゃんに聞いてみるよ。なにしろじいちゃんは世界一の学者だからこの世の中に分からないものなんて無いんだよ。」

と、自慢気に話しました。孫は帰って、富太郎に尋ねました。

「おじいちゃん。この植物、なんて名前なの。」

さて、みなさんが富太郎だったらどうしますか。実はここが富太郎の偉いところなのです。

「どれどれ、う～ん、ちょっと分からないな。おじいちゃんもはじめて見る植物だ。

学校の先生に聞いてみたらどうかな。」

孫は大いに不満でした。世界的な植物学者のおじいちゃんに分からないものが、学校の先生に分かるはずがない、という思いもありました。

ところが数日後、孫は目を輝かせて帰ってきました。そして、帰り着くなり書斎にいた富太郎に言いました。

「おじいちゃん。ぼくの先生凄いんだよ。あの植物の名前も分かったし、詳しく説明もしてくれたんだよ。」

もちろんその裏には、富太郎から学校の先生への丁寧なお願いの手紙と植物の解説が送られていたのですが。それからです。富太郎の孫が学校の授業を真剣に聞くようになったのは。

この逸話は私たちに貴重な示唆を与えてくれます。

- ・ 1つ目として、指導者(先生)に対する尊敬の気持ちの大切さ
- ・ 2つ目として、指導者(先生)が例え自分(保護者の方々等)より知識や見識で劣る若者(若者)であっても、指導者として尊敬することの大切さ

現在、学校教育が難しくなっているのは、指導者に対する尊敬の気持ちが乏しくなってきたことに一因があるといわれています。確かに学校がすすめる教育活動にしても、保護者の方の中には異論をお持ちの方もおいでになるか、と思います。

また、職員の言動や指導方法について、どうしても理解できない、納得できない面があるかもしれません。ですが、お子さんの前で、学校や担任をけなし、一時的に心の溜飲を下げたとしても、その結果、お子さんが学校教育を軽視するようになったら取り返しのがつかないこととなります。本校の賢明なる保護者のみなさまには、このような話は必要ないこととは思いますが、1つの逸話として紹介してみました。